

日本学術会議公開シンポジウム

海洋観測における研究船の役割： 成果と展望

日時：平成30年12月25日（火）13:00～17:00
場所：日本学術会議講堂（東京メトロ千代田線「乃木坂」5出口より徒歩1分）
主催：日本学術会議地球惑星科学委員会SCOR分科会
後援：東京大学大気海洋研究所
参加費：無料（事前登録不要）

開催趣旨

周囲を海に囲まれた我が国では、経済・社会・安全保障・文化のあらゆる面で海が大きな役割を果たしている。この豊かな海を守り継承していくためには、海についての科学的知見を深め、海で活躍する人材を育てていかなければならない。また、「国連持続可能な開発のための海洋科学の10年(2021-2030)」やSDGs14「海の豊かさを守ろう」に示されているように、地球環境変動の解明や生物多様性の保全、海洋資源の持続的開発などは地球規模の課題であり、海洋観測においては国際的な協力と連携が重要だとの認識が高まっている。現在の海洋観測では、衛星や航空機、深海探査機など多彩な技術が利用されるようになったが、船が最も重要かつ基本となることに変わりはない。しかしながら、我が国の観測船・研究船をとりまく情勢は近年非常に厳しく、機材の老朽化や観測日数の減少が著しくなっている。本シンポジウムでは、これまでに研究船が果たしてきた役割を概観した上で、これからの研究船はどのようにあるべきかを議論したい。

プログラム

13:00	開会挨拶 山形 俊男 (海洋研究開発機構、SCOR 分科会)	15:05	大陸間縦横断高精度観測 (GO-SHIP) の成果 河野 健 (海洋研究開発機構)
13:10	挨拶 阿蘇 隆之 (文部科学省研究開発局海洋地球課)	15:25	気象庁定線時系列観測の成果 中野 俊也 (気象庁)
13:15	基調講演：海洋観測の重要性と船の果たす役割 津田 敦 (東京大学)	15:45	練習船の研究利用と人材育成 神田 稔太 (東京海洋大学)
13:45	公募型成果1 未知 (第4) の南極底層流生成域の発見 大島 慶一郎 (北海道大学)	16:00	海洋観測の未来と研究船利用の展望 花輪 公雄 (東北大学、SCOR 分科会)
14:05	公募型成果2 海底地殻変動観測で捉えた2011年東北地方太平洋沖地震 日野 亮太 (東北大学)	16:15 - 16:25	- 休憩 -
14:25	公募型成果3 GEOTRACES ：海の3D元素診断～22世紀の気候変動予測に向けて 張 勁 (富山大学、SCOR 分科会)	16:25	パネルディスカッション：研究船の未来 (座長) 植松 光夫 (東京大学) (パネリスト) 江淵 直人 (北海道大学) 平 朝彦 (海洋研究開発機構) 津田 敦 (東京大学) 花輪 公雄 (東北大学、SCOR 分科会) 日比谷 紀之 (東京大学、SCOR 分科会)
14:45	公募型成果4 インド洋深海熱水域調査の成果と新しい学術領域への波及 高井 研 (海洋研究開発機構)	16:55	閉会挨拶 蒲生 俊敬 (東京大学、SCOR 分科会)
		17:00	閉会